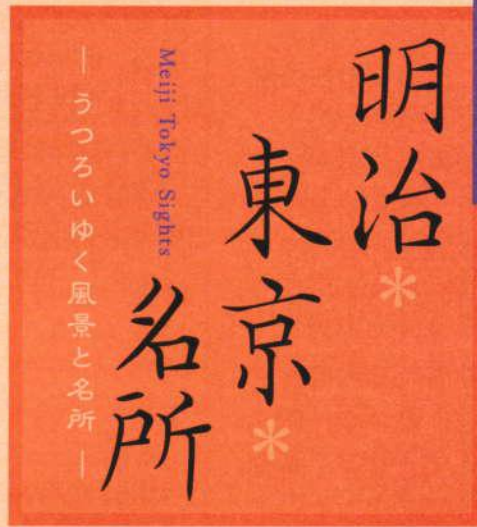


ぼいす

北区飛鳥山博物館だより
2019.3.20

42

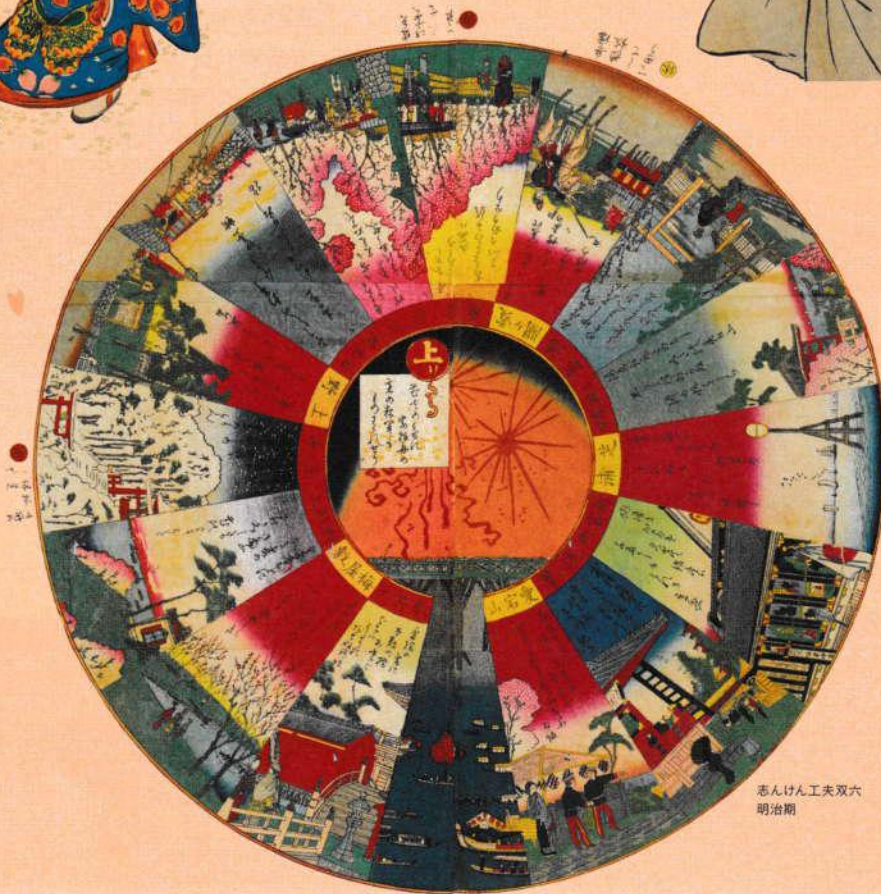
春期企画展



風俗画報 第407号より



風俗画報 第419号より



会期

3月19日(火)～5月12日(日)

午前10時～午後5時 [観覧無料]

※4月16日から展示資料の一部を差し替えます ※休館日 3/25・4/1・4/8・4/15・4/22 各(月)、5/7(火)

会場

北区飛鳥山博物館 特別展示室・ホワイエ

明治*東京*名所

— うつろいゆく風景と名所 —

明治時代、東京は欧風都市の建設を目指すものの、江戸の残像を消し去ることは難しく、東京は新旧の風景が混在した都市として変貌を遂げていきました。

名所においても文明開化を象徴する洋風建築や近代的な工場などが新名所としてもてはやされますが、一方では飛鳥山のように前時代から引き継がれる名所もあれば、大きく姿を変えた名所、あるいは消えていく名所もありました。

本展では、当館が所蔵する石版画や名所案内書などの資料を通して当時の東京名所をたどりながら、時代が求めた名所の在り方を探っていきます。ぜひご観覧ください。

関連イベント

1. 講演会

「**汽車が走る。名所が変わる！**
—鉄道が変えた北区—」

日時：4月20日(土) 午後1時30分～午後3時

講師：黒川 徳男氏 (國學院大学兼任講師)

定員：80名 (抽選)

申込：往復はがき、または電子申請
4月9日(火) 午後3時必着

2. ミニ講義&巡見

「**明治の東京名所を訪ねて**」

日時：4月27日(土) 午前10時20分～午後3時30分

※午前は講義、午後は現地巡見 (霞が関周辺)

講師：担当学芸員

定員：30名 (抽選)

費用：100円 (資料代)

申込：往復はがき 4月16日(火)必着

3. 展示解説

「**展示でたどる明治*東京*名所**」

日時：① 3月24日(日) ② 5月12日(日)

各回 午後1時30分～2時10分

講師：担当学芸員

定員：30名 ※午後1時から整理券配布

申込：不要 当日直接会場へ

同時開催
スピノフ展示

明治*TABATA*名所 ～文士芸術家の暮らした田端

会期：2月26日(火)～5月6日(月・休)

午前10時～午後5時

※入館は午後4時半まで

会場：田端文士村記念館

(JR田端駅より徒歩2分)

TEL：03-5685-5171

※休館日等の詳細は
同館のホームページ
よりご確認ください。



『新撰東京近郊名所図会』第三巻より
「田端の春色」明治43年(1910)



石版画「東京名所 飛鳥山」明治23年(1890)

VOICE

年中行事を、きて・見て・体験!

当館常設展示室に、志茂にあった水塚(みづか)の住宅を再現したコーナーがある。ここでは、荒川の洪水に備えた生活を紹介するとともに、ザシキや前庭を使って、家庭で行なわれていた年中行事を再現している。一年を通して、区内各地域や各家庭で行なっている年中行事はさまざまにあるが、その中から、正月供え、節分、七夕、月見のお供えなどを、時期に合わせて展示している。

また、赤羽自然観察公園内に移築復原された旧松澤家住宅「北区ふるさと農家体験館」でも、年中行事を再現している。正月飾り、小正月の繭玉団子、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、お月見行事、干し柿作りなど、しつらえを見るだけでなく体験する事業も行なっている

(区報「北区ニュース」や赤羽自然観察公園の掲示板上案内)。

学芸員は、寺社や家庭で行なっている行事を見せていただき、お話を伺って、かつての行事の様子や現在までの変化を調査し記録している。各家庭で行なわれる行事は、それぞれの家ごとのやり方があり、どれが正解というものでもない。それでも、事例を集めることで、地域での特色なども出てくるのが面白い。

生活様式の変化で、今では行なわれない行事も増えてきた。ぜひ、博物館やふるさと農家体験館で、年中行事をきて・見て・体験してほしい。これからの季節は、マコモで作った七夕馬の飾り付けがおすすめだ。

(田中)

村絵図風土論研究序説 — 溜池を探せ!の巻 —

大地・水・人



石倉 孝祐 (当館学芸員)

このところ近世の村絵図を前に「ポーっと生きてる」毎日だ。水田がどこまでも続き、細かな用水の流れを辿ると田んぼを通う爽やかな風や、農事に勤しむ人々の声さえ聞こえてくるようで、まるで地図を見るだけでタイム・トリップを愉しむことができる。ちょっと贅沢なひとときだ。

さて1kgの米を収穫するには3.6 tの水が必要であるといわれる。つまり稲作農業は大量の水資源を必要とし、その多くは人工的な灌漑に依存しているのである。一口に灌漑といっても日本列島を東西に分けると、かつて中部以東では小河川から取水するのに対して、関西以西では溜池に頼っていることが知られている。現代でも溜池の県別トップ5はすべて近畿以西であるのも農地の立地特性とはいえ、古代以来、西日本は溜池を中心とした社会であったといえよう。

ところで東日本で大河川流域の水田開発が進んだのは、太閤検地から元禄にかけての時代。これにより日本全体の石高は1,800万石から実に3,000万石に増加した。まさに高度成長だ。しかし、この事実を裏返すならば、中世以前の関東でも溜池への依存度が高かったのではあるまいか。そして溜池を中心とした地域では一般に集落は自立的で内部で完結した社会構造を持つのに対し、灌漑用水で密接に繋がれた複合的な地域共同体では、当然のことながら権力統合の様式やその規模においても異なる、重層的な権利関係をもっていたのである。

北区では古代官衙遺構が発見され郡域権力結集の場であったことから、郡衙膝下には水稻耕作が展開したことが予想されるし、事実、古代の水田面も発見されている。しかし、それらは溜池や湧水を利水としたもので、大規模な灌漑整備を前提にした権力の所在は考えにくい。『和名抄』に豊島郡7郷の所在が知られるが、地名の比定は困難ながら散在した集落と水田経営が予想される。この風土与件は、中世に開発領主化した武士団・豊島氏の動向からも窺うことができる。11世紀中期に北区豊島付近に営所を定め定着した豊島氏は、やがて郡衙の故地に拠点をついた。その後、「豊島宮城文書」によれば、豊島氏は14世紀以降、石神井川周辺の領主と婚姻を繰り返し、ついに石神井池付近

に拠点を移すに至る。つまり、谷地地形が潤す湧水に依存する安定経営を目指したのである。また15世紀中期の「豊島荘年貢目録」を見ても郡内に散在する経営形態とも符合し、依然として湧水や溜池を利用していたようだ。いかがだろうか。つまるところ農業経営を通して外化された環境を、人間側が内在的に了解するのが風土与件とすると、かつて和辻哲郎が『風土』で論じたように、風土とは社会的人間による空間的超越の一過程として自然環境を主体的に客体化するとともに、すでに特定の文化様態であり、そこに何らかの人の営為を見出すことができるだろう。大地・水・人は風土なのである。テレビの「〇コちゃん」に叱られないようマジメに、近世の村絵図に溜池の痕跡を探す日は続く。



武州豊島郡上中里村絵図面 (国立国会図書館所蔵)

「野外講座 北区の近代建築を巡る」

**旧渋沢家飛鳥山邸 青淵文庫
(旧渋沢庭園内)**
大正14年に竣工した煉瓦造コンクリート造併用の建物で、栄一の傘寿と子爵に昇爵した祝いに書生たちが組織した竜門社から寄贈されました。
(重文 平成17年指定)

**旧渋沢家飛鳥山邸 晩香廬
(旧渋沢庭園内)**
大正6年に竣工した木造の建物で、栄一の喜寿の祝いに清水組(現清水建設)から寄贈されました。
(重文 平成17年指定)

文化財説明板
旧渋沢庭園の入り口付近に建つ説明板には寄贈式典で挨拶する渋沢栄一の画像が載っています。

旧醸造試験所第一工場
我が国初の国立醸造研究機関で、ここで開発された醸造法は現在も酒類の醸造に使われています。第一工場は明治36年度に竣工した煉瓦造の建物で、醸造の研究を行うための工夫が建物の随所に見られます。
(重文 平成26年指定)

文化財説明板
醸造試験所の敷地の一部は、「醸造試験所跡地公園」となり、第一工場の説明板も建っています。

**旧古河邸
(都立 旧古河庭園内)**
大正6年に竣工した煉瓦造2階建ての洋館で、表面は新小松石で仕上げられています。ジョサイア・コンドルが設計し、1階は洋間、2階は和室になっています。
(名勝 平成18年指定)

**書庫
(都立 旧古河庭園内)**
明治43年に竣工した葛西萬司設計の建物で、築地の古河邸に建てていた建物を西ヶ原の古河邸建設にともない移築したものです。
(名勝 平成18年指定)

北区飛鳥山博物館の前を通る本郷通り沿線には、国の重要文化財や名勝に指定された建造物が集まっています。平成30年(2018)が旧古河庭園完成100周年にあたっていたこともあり、11月16日(金)に、国指定文化財の建造物を巡る野外講座を開催しました。午前中の博物館での講義に続き、午後は、旧古河邸だけでなく、古河家とも関わりの深い渋沢栄一の旧渋沢家飛鳥山邸や旧醸造試験所の建物を巡りました。



心ふるえる 展示体験



企画展

沖縄の旧石器時代が熱い！

(国立科学博物館 平成30年4月20日～6月17日)

はて？心ふるえる展示って…。考えてはみてもなかなか思い浮かばない。そもそも最近他館の企画展を見に行っていないな～。あっそうだ去年久しぶりに科博に行ったのを思い出した。ということで昨年の春に開催された国立科学博物館の企画展のことを振り返ってみたいと思います。この展示は何といってもホットな話題を速報的に展示したことが注目されます。私たちはどこから来たのか。そんな謎を解くカギが近年、沖縄県の旧石器時代の遺跡から発見されています。まだ成果の全貌はみえていないのですが、徐々に分かったことを中間報告的に展示することは今までにないものです。沖縄はやっぱり“SPEED”ですね！

さて展示ですが、どうも職業柄、資料の美しさとかすごさに感動する前に、展示手法に目がいつてしまいます。心がふるえないのはこのせいでしょうか。この企画展でも洞窟をイメージした造形や、発掘現場の道具を使った誘導サイン、最新の3Dプリンターを使った演示、こどもにわかりやすいアニメ動画など、気になるものばかりでした。そして何といっても展示タイトルの「沖縄の旧石器時代が熱い！」。沖縄の暑さと“ホット”な話題とが掛かっていていいですね。担当者のセンスが感じられます。自分もこんな展示ができればなと、心がふるえない分闘志を掻き立てられた展示でした。(鈴木)

イベント・レポート

「北区ジュニア考古学クラブ」 はじめました！

以前にも少し『ほいす』誌上で書いたことがあります。最近では大人に混ざって、小中学生が講座や講演会に参加する姿が見られるようになってきました。かつての自分よりも、はるかに活動的な彼らの姿には、いつも感心させられます。

そもそも私がこの道を目指したきっかけは、小学6年生のときに、学校前で行われていた発掘調査をぼんやりと眺めていたことでした。しかしその当時、明確に将来へのビジョンを持っていたわけではなく、高校生になって真剣に進路を考えるようになるまでは、記憶の彼方へと追いやられているような状況でした。

もし同じように、考古学への熱意を持て余している小中学生がいたら、その子たちのために博物館ができることは何だろうか…。そこで考えたのが「活動の場づくり」としての本クラブです。学芸員とともに、遺跡見学や資料調査といった活動を行う中で、考古学への興味・関心をさらに深めていくことを目的としたものです。今年度はその需要をはかるべく、単発講座として3回開催しました。いずれの回も定員を超える応募があり、また参加者自身の意欲が極めて高いことから、このような活動への需要は十分にあることがわかりました。今後は正式にクラブ員を募集し、定期的に活動していくことで、未来の考古学者を育てていけたらと考えています。(安武)



貝種を調べる (千葉市荒屋敷貝塚)



貝輪づくり

いにしえからの 贈り物

U字形をした古代の鉄製品



田端西台通遺跡（田端5丁目）で行われている発掘調査で、昨年度、平安時代の竪穴建物跡から2点の鉄製品が出土しました。出土した鉄製品は、アルファベットの「U」のような形をしています。これだけを見ると、どのような使用目的にあった製品なのか分かりにくいかもしれませんが、この製品は、使用の際には木製の柄に取り付けられ、鋏もしくは鋤の刃先として用いられた鉄製の農具なのです。鋏先であったか、鋤先であったかの違いは、この製品だけでは判別が付きませんので、「U字形鋏・鋤先」などと称されます。

鉄製の鋏・鋤先は、機能性に優れ、重宝がられたと考えられます。そうした貴重な道具が、大きな破損も認められないのに、なぜ竪穴建物跡内に2点も残されていたのでしょうか。それを読み解くカギのひとつは、この建物が「焼失家屋」であったことにあるのかもしれませんが。建物に使われた柱などと考えられる部材が、焼けて炭化した状態で検出されているのです。断定することはできませんが、農具が保管されていた建物が火災に遭い、焼け落ち、結果的に2点の鋏・鋤先がそのまま建物内に取り残されてしまったのかもしれませんが。（牛山）

写真に見る あの日あの時

写真は昭和29年（1954）2月6日に現・志茂銀座商店街を横切るように流れていた小柳川（小那木川とも呼ばれていた）に架かっていた石橋を撮影したものです。冬の寒い日に、冷たい水で洗濯をしている女性が写っており、当時の生活の様子を垣間見ることができ一枚となっています。

さて、この女性がまとっている衣服、「昭和のお母さん」と言われれば大半の方がイメージする、そう、割ぼう着です。この割ぼう着は、明治30年代に日本女子大学の寮監であった松本幸によって考案され、その機能性やハイカラなデザインが広く女性たちに受け入れられたため「主婦の制服」と言われるほど全国に普及していきました。

さらに、昭和6年（1931）満州事変の翌年に結成された大日本国防婦人会の制服となったことも、割ぼう着の普及に大きく貢献しました。大日本国防婦人会の会員は一時1000万人にも達したといえますので、その影響力は相当なものだったのでしょう。

「働く女性のお仕事着」

しかしその後、昭和17年（1942）には厚生省により婦人標準服が決定され、その婦人標準服の中にもんぺなど洋服のデザインが採用されていたことが、戦後の日本女性たちの洋装化を推し進めるきっかけとなりました。そのため、和服で作業をするための割ぼう着はしだいに着られなくなったように思われます。しかし、この写真を見ると、仕事をするための機能が優れている割ぼう着は、まだまだ女性たちのお仕事着として採用されていたようです。（工藤）



故 手川文夫氏撮影



学芸員の本棚



序文に本書の元になった初版(1964)は著者の勤務先である旧都立大教養課程での講義案が下敷になったとあります。新書判にもかかわらず、中身は極めて濃かったことを覚えています。大学で自然地理を履修していた私は出たばかりの本書を改めて読みますが、内容を消化したのは後年でした。

台地と低地、河川等が分布する東京付近の地形は第四紀後期の比較的新しい時代に形成され、火山の降灰や氷河性海面変動等様々な営力によって堆積と浸食が交互に起こり複合的な地質構造をしています。著者はそうした成り立ちを豊富な図版とともに学史も含めて丁寧に解説しています。

都内の地域博物館には歴史を専攻した学芸員が多いようです。職務上地形・地質の扱いを迫られた際は本書が有益です。最初抵抗があっても諦めずに繰り返し読み進めることです。門前の小僧習わぬ経を読むのでは

『東京の自然史』(増補第二版)

貝塚 爽平 著 紀伊国屋書店 昭和54年(1979)3月刊行

※現在は講談社学術文庫判で入手可能

ないですが、何度も読むと不思議なことに少しずつほぐれていきます。その内きつと後光が差してくると思えます。

生前著者は「調査は獐猛に、発表は優雅に」を研究姿勢にされた話を先輩から伺いましたが、きっとそうした中から都民の足元の正体を解いて下さったのでしょう。なお、姉妹編にあたる『富士山はなぜそこにあるのか』(1990丸善)の一読も併せてお勧めします。本書も現在は講談社学術文庫判(『富士山の自然史』と改題)で入手可能。

(中野)



博物館インフォメーション

◆常設展示室

近世新展示資料のご紹介

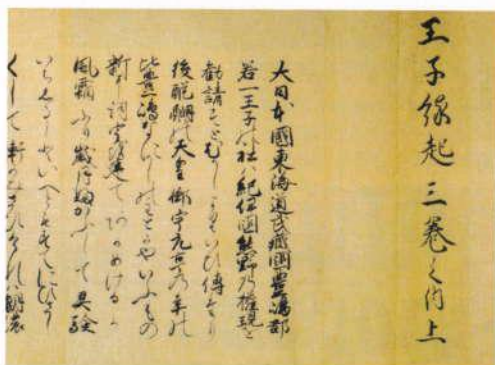
3月19日(火)より常設展示室の展示が一部新しくなります!ぜひご覧になってください。

1 実物資料「若一王子縁起絵巻」の展示

近世初期の地域の姿を示す、「若一王子縁起絵巻」全3巻を8期に分け、3か月ごとに入れ替え近世コーナーで公開いたします。

2 映像展示「絵巻が誘う王子の今昔」

「若一王子縁起絵巻」に描かれた地域の表象は、幕末以降、思わぬ展開を遂げました。西欧のジャポニスムに影響を与えた様子を、映像でご紹介します。



若一王子縁起絵巻 上巻(部分)

◆ミュージアムグッズに、 ニューフェイスが登場!

一筆箋「夏のおとなし川」[280円]
開館当初より、ご好評いただいている一筆箋に、新デザインが登場です!
浮世絵「源氏合筆四季 夏 王子音無川 夕すずみ」(二代歌川広重・三代歌川豊国)をモチーフにした爽やかなデザインの一筆箋です。ぜひご利用ください。



まがたま 勾玉ストラップ [100円]

当館学芸員がひとつひとつ心をこめて作った勾玉ストラップです。毎月9日/当館認定勾玉の日(休館日の場合は8日)に、限定10個を販売します。初回の発売日は4月9日(火)です。売り切れ御免!お求めはお早めに。



◆北区の昔を伝える資料や 写真を探しています!

当館では、北区内で使われていた生活用具や、北区内を写した懐かしい写真など、昔の暮らしがわかる資料を探しています。「こんなものでもいいのかしら?」という方も、ぜひ博物館までご一報ください(TEL: 03-3916-1133)。

春 3～6月

〈展示〉

- ◆ 春期企画展「明治*東京*名所—うつろいゆく風景と名所—」 (3/19～5/12)
 - ・ 展示解説「展示でたどる明治*東京*名所」 (3/24、5/12)
 - ・ 講演会「汽車が走る。名所が変わる！—鉄道が変えた北区—」 (4/20)
 - ・ ミニ講座&巡見「明治の東京名所を訪ねて」 (4/27)
- ◆ スポット展示「赤レンガ図書館建造100年記念展示」 (5/25～6/23)

〈講座〉

- ◆ 北区民俗学講座「北区の旧村地域を歩く—浮間村編—」 (5/18)
- ◆ みる・よむ・わかる!「江戸名所図会」 (5/19)
- ◆ 飛鳥山3つの博物館合同企画「歴史発見! 街めぐり」 (5/25)
- ◆ 北区ジュニア考古学クラブ「遺跡を歩こう!」 (6/2・9)
- ◆ 北区遺跡学講座 2019春「宮堀北遺跡」 (6/8)
- ◆ イチから知る、広重「絵本江戸土産」 (6/16)
- ◆ お富士さん直前! 北区富士塚めぐり (6/26)
- ◆ 北区民具学講座「民具が教えてくれること2」 (6/29)
- ◆ 第34回新聞から読む考古学 —2019年上半期を振り返る— (6/30)

夏 7～9月

〈展示〉

- ◆ 夏休みわくわく展示「北区のどうぶつ大集合!」 (7/20～8/25)
- ◆ 特別展覧会「第18回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」 (9月中旬～10月中旬)

〈イベント〉

- ◆ 夏休みわくわくミュージアム☆2019 (7/20～8/25)
 - ・ 夏休み土器づくり教室
 - ・ チャレンジ!昔の手仕事～藍染 ほか

〈講座〉

- ◆ 『少年倶楽部』で読み解く昭和14年 (7/13)
- ◆ ヴィジュアルでわかる! 浮世絵で知る北区の魅力 (8/25)
- ◆ ほぼ分かる、江戸時代の北区の村 (9/22)

※催し物は仮称のものも含まれます。()内の実施日は予定です。詳細は当館発行の催し物案内や北区ニュース、ホームページをご覧ください。

お知らせ

館内消毒にともなう臨時休館

収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸(くんじょう/殺虫・殺菌処理)にともない、7月2日(火)～7月5日(金)は、臨時休館とさせていただきます。何卒ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

北区飛鳥山博物館だより ばいす42

[発行日] 平成31年3月20日
 [編集・発行] 北区飛鳥山博物館
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
 TEL. 03-3916-1133
 [印刷] 川口印刷工業株式会社

学芸員リレーエッセイ

博物館

いろは歌留多

いにしえたどり
 豊島駅
 伝に

飛鳥時代に整備された東海道や東山道など七道は、諸国を広域に分割した行政区画でした。それは同時に交通路でもあり、中央の都城と地方は、駅路という幹線道路で繋がりました。七道駅路には30里(約16km)毎に駅家が設けられ、駅馬を置きました。武蔵国豊島郡は七郷を所管し、そのうちの駅家郷は豊島駅が所在した郷に推定されています。乗漕駅(杉並区天沼?)と井上駅(千葉県市川市)の中間に位置する豊島駅は、武蔵国府と下総国府を結ぶ駅路の中継施設でした。神護景雲二年(768)の『続日本紀』には、この駅路の利用頻度が高いことから豊島駅を含む五駅の駅馬を五疋から十疋に増やすことが書かれています。豊島駅は、東海道駅路の駅家だったのでした。

ところで、箱根駅伝はNHK大河ドラマ「いだてん」の主人公、金栗四三の発案で創設されたそうですが、競技名に駅伝と名付けたのは江戸時代の伝馬制からヒントを得たようです。この伝馬制も元を辿れば、ルーツは古代の駅伝制でした。駅伝競走は、選手が一定区間を走り、櫛を繋いでゴールする、その合計タイムを競いますが、古代の駅制なら選手は駅馬で、区間の中継所は駅家、櫛は公文書や役人に置き換えられるかもしれません。(中島)

利用のご案内

【開館時間】 午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで
 【休館日】 毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
 年末年始(12月28日～1月4日)
 ※このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円 ※	240円	720円
高齢者(65歳以上)	150円 ★		
小・中・高	100円	80円	240円

・小学生未満は無料 ・団体扱いは20名以上
 ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館・紙の博物館をご覧になれます。
 ※障害者手帳をご提示いただいた場合は、一般券を半額でご利用になれます。
 (障害のある方お1人につき、介助者1名まで観覧料が免除になります。)
 ★年齢が確認できる証明書をご提示ください。



交通のご案内

[JR京浜東北線] 王子駅南口より 徒歩5分
 [地下鉄南北線] 西ヶ原駅より 徒歩7分
 [東京さくらトラム(都電荒川線)] 飛鳥山停留場より 徒歩4分
 [都バス(■64、■40、■55系統)] 飛鳥山停留場より 徒歩5分
 [Kバス(北区コミュニティバス)] 飛鳥山公園停留場より 徒歩3分
 ※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

編集後記

もうすぐ本格的な春がやってきます。博物館にいて「春だな〜」と感じる瞬間…それはサクラの開花状況についての電話を受けた時です。東京で開花宣言が出されると、日に日にそういったお問い合わせが増えてきます。近年ではこの時期、すっかり公園内の開花状況を確認しながら通勤することが日課となっています。今年はどうな花見模様となるのでしょうか。みなさまのお越しをお待ちしております。(安武)